

平成 28 年度 【 学園研究費助成金 < A > 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ イイツカ エリト
氏名 飯塚 恵理人

研究期間 平成 28 年度

研究課題名 1964 年東京オリンピックに向けた日本文化とスポーツ放送関連資料に係る基礎的研究—担当ジャーナリストの手元に残された資料の収集整理とアーカイブ化

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	飯塚 恵理人	文化情報学部	教授
研究分担者	脇田 泰子	文化情報学部	准教授
研究分担者			

1. 本研究開始の背景や目的等 (200 字～300 字程度で記述)

1964 年東京オリンピック（以下、五輪）は戦後復興した平和国家・日本の魅力を世界にアピールする好機でもあった。固有の文化と芸術の国内外へのメディア発信について当時の日本がどのような戦略を持ち、海外はどのように受け止めたのか。これを知ることは、五輪精神たるオリンピズムにスポーツと文化と教育の融合を謳うオリンピック憲章の趣旨とも合致する。

かくて護身術だった柔術は五輪種目 JUDO となり、能楽や歌舞伎等は「伝統芸能」として紹介された。この語自体、享受階層の元来異なるこれらの芸能を、草創期のラジオが一括りにして放送の目玉とすべく生み出した新ジャンル概念である。本研究は、半世紀前のマスメディアがスポーツと芸能の日本文化にもたらした変化と影響について調査することを目的とした。

2. 研究の推進方策 (300 字程度で記述)

- 脇田は、平成 26 年度学園研 A による在日フランス人ジャーナリストの遺品調査の過程で、1964 年東京五輪開会式の際の仏選手団の写真を見つけた。祖国に向け、本大会と開催国日本とがどのように報じられたのか、関心を抱く契機となったが、関連の追加資料が見つからなかったことから、当時の仏メディア記事が報じた内容を分析する手法に切り替えることとした。
- 東京は「東京 2020」という二度目の五輪開催に沸くが、その次の 2024 年に百年ぶり、三度目の夏季五輪を招致すべく奔走中なのがパリである。近代五輪の創始者、クーベルタンの地元でもあるこの都市で、64 年の東京に来て五輪を実際に知る人たちに聞き取り調査を行う。
- 東京が実施した日本最高の芸術展示や文化事業を外国の記者がどのように報じたか、当時の文献を、IOC（国際オリンピック委員会）も含めた中から探り、明らかにすることも目指す。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

2020年東京五輪では招致段階から様々な文化施策が戦略的に進められ、官民一体の「文化プログラム」への結実が図られているが、1964年東京五輪では「芸術展示」が主体であった。文化的要素としてのオリンピックに光を当てることに関心を示すフランス人は多いが、既に半世紀以上前の1964年五輪のため東京まで足を運び、しかもその話を現在できる状況にある人が非常に少ないことが判明した。このため芸術展示に限らず、東京五輪を知る人で聞き取り調査への協力が可能な相手を探すように目標を変えた。日本にあり、時間的制約の多い中でも、フェンシングの仏代表選手として出場したピエール・ロドカナキ氏(78)、その仏選手団の公式通訳を務めたカトリーヌ・カドゥ氏(74)、そして近代オリンピックの父であるクーベルタン男爵の直系子孫(曾姪孫)で、オリンピック教育を世界に広める活動を行う国際ピエール・ド・クーベルタン委員会(CIPC)イヴァン・ド・ナヴァセル・ド・クーベルタン理事(73)という立場の異なる3人に聞き取り調査を依頼した。

ロドカナキ氏は、日本文化よりも勝利を意識していた滞在期間中、違う競技種目の選手と選手村で関わった経験が異文化交流の強い記憶だと語った。当時、20代そこそこで日本語を勉強中の学生だったカドゥ氏からは、東京で五輪の仕事をしたいと話した際に家族が「文化も何もない極東の国になぜ」と猛反対するのを振り切って来日し、白人女性に対する特別な視線も乗り越え、通訳の仕事を獲得していく国際理解とジェンダーの異文化ストーリーを聞き、ド・クーベルタン氏は64年五輪にこそ参加していないが、創設者の理念継承者として肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学がオリピズムであることは21世紀も変わらず、芸術も含めた文化が五輪の重要なもう一つの側面だと首肯した。64年当時の新聞・雑誌等マスメディア報道の内容分析を進めるが、極東の未知の国をとにかく「見に行く」的なニュアンスが強く、まだ情報が希少だった時代の国際報道の難しさが偲ばれる。

4. キーワード (本研究のキーワードを1項目以上8項目以内で記載)

①文化	②オリンピック	③東京	④1964
⑤日本	⑥伝統	⑦芸能	⑧フランス

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著書名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもののみ数件を記載。)

村上正樹・飯塚恵理人『『名古屋芸能文化としてのテレビ局草創期ドラマ制作』の基礎的研究～中部日本放送草創期のテレビドラマ『演出家・伊藤松朗』の仕事～』名古屋芸能文化、2016.12、第26号 P.81-90

今年度は、1964年当時の東京と五輪を知るフランス人の聞き取り調査の準備とその実施、および1964年東京五輪関連の海外文献の収集に専念した。来年度は、これらの文献の読み込みと聞き取り内容との照合を通して、64年五輪を機にスポーツと芸能という日本の文化に、どのような変化と相互理解を伴う影響が国内外にもたらされたのか、分析を深める。これらの作業を通して初めて、1964年東京五輪と開催国・日本を報じた、主として海外の活字マスメディアが果たした文化観形成における役割についても明らかにすることが可能になる。その後、発展的に放送メディアの影響についても、考察を加えることとしていきたい。